

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	金沢大学	整理番号	L01
プログラム名称	文化資源マネージャー養成プログラム		
プログラム責任者	中村 慎一	プログラム コーディネーター	鏡味 治也

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

〔総括評価〕

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

〔コメント〕

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、ローカルな文化資源のグローバルな利活用を可能にする人材を輩出するため、留学生も含め出身学部の異なる学生が刺激し合い切磋琢磨できるような取組が行われている点において評価できる。しかし、文化資源マネジメント能力の涵養という観点において、当該分野を専門とする第一級の専任教員と学生が専門分野の枠を超えて緊密に議論を行うなどの充実した研究指導が行われているとはみなし難いため、今後一層の努力が求められる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、国内外での実地研修やワークショップなどを通して効果的な研究訓練が行われている点において評価できる。なお、文化資源マネージャーとしてグローバルに活躍できる多様で具体的なキャリアパスの見通しが提示できているとはみなし難く、キャリアパス開拓を専門とする職員を配置するなどの改善が必要である。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、メンター教員の配置や特任教員の活用などで組織的な支援体制が構築されている点が評価できる。国内外の多様なセクターから第一級の教員を結集した指導体制が構築されているとはみなし難い点があるため、今後一層の努力が求められる。

優秀な学生の獲得については、学生が学修研究に専念できる経済的支援（奨励金支給）を実施している点は評価できる。しかしながら、多様な背景を持つ優秀な学生の獲得、特に優秀な日本人学生の獲得のための工夫については抜本的な改善が必要である。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、**Qualifying Examination**において研究レポートを課しているが、レポートのみで修得能力の包括評価が十分に行えるかどうか疑問であり、システムが十全に調えられているとは判断し難い。また、現地調査にもとづく研究レポートを修士論文とみなすことについても、グローバルリーダーに相応しい資質能力を保証する学位審査体制が構築されているとはみなし難いため、改善に向けた今後一層の努力が求められる。

事業の定着・発展については、金沢大学と北陸先端科学技術大学院大学との協働によって平成 30 年度に「先進融合学術共同大学院」設置が予定されており、当該プログラムがその大学院の未来社会創造分野国際文化遺産領域として位置づけられることが検討されている点は十分に評価できる。